

令和5年度第1回大郷町総合教育会議 会議録

日時：令和5年11月24日（金）

午後1時30分～

場所：大郷町役場3階第3委員会室

【出席者】

（教育委員会）

教育長・武藤職務代理・高橋（賢）委員・及川委員

角田学校教育課長・赤間社会教育課長・金指導主事

（町長部局）

田中町長・熊谷総務課長・本間補佐

【欠席者】

（教育委員会）

高橋（幸）委員

1. 開 会 【進行】 熊谷総務課長 (13:30)
2. あいさつ 田中町長
(省略)
3. 議 題 運営規則第3条により町長が議長となり進行

議 長 「(1) 大郷町の不登校の現状について」を事務局から説明願う。

指導主事 (概略を説明)

- ・不登校数の見方を変える（継続、新規を分析して対応していく）。
- ・データから推察すると、新規の不登校数を減らせば不登校の生徒は減る傾向にある。
- ・特に、中学校1年生で新規に不登校になる人数は、新規数全体の半数を超えている。
- ・令和3～4年度、宮城県教育委員会から「行きたくなる学校づくり」の指定を受け、「楽しい学校」、「授業が分かる学校」を目指し、授業づくりや集団づくり等に教育委員会と学校が連携し取り組んできた。その成果として大郷中学校の令和4年度の新規不登校数が減少したが、今後も不登校数がゼロではないので、課題を検証しながら取り組んでいきたい。

議 長 「(2) ケアハウスの活動状況について」を事務局から説明願う。

スーパーバ (概略を説明)

- イ ザ ー
- ・全国規模で増加する不登校の児童←生徒数。宮城県は特にその中でも多い傾向にある (全国ワースト4位)。県知事の強い思いから、各市町村にケアハウスが設立された。大郷町も令和2年度に設置。
 - ・ケアハウスの支援 (来所支援、学校支援、家庭支援) →教育の場ではなく、ケアをする場として (心や体をほぐす)、児童生徒をサポートしている。
 - ・子どもに元気が戻ってくると..... 積極的にコミュニケーションが交わせるようになります。
 - 自分が嫌なことを言えるように
 - 自分がしたいことを言えるように
 - 自分のことが言えるように
 - これまで言えなかったことをカミングアウトし始める など
 - ・2～3歳ごろの幼児教育の中で、自分の感情を受け止めてくれる存在が必要→「愛着形成」が大切。
 - ・Youtube等で情報が溢れる時代。学校だけでは子どもたちを育てられる時代ではなくなっている。学校、家庭が一体となって取り組むことが必要になっている。

議 長 大郷町の不登校の現状やケアハウスの活動状況について、ご質問やご意見があればお願いします。

高橋 (賢) 委 今の説明や資料を拝見すると、不登校になった生徒の数 (継続数) は減りにくいデータとなっているので、新規の不登校生徒を増やさないようにしていくことが大切。説明の中でもあったが、2～3歳ごろの教育が大切で、学校だけではなく、家庭や地域でも心の形成を図っていくような環境づくりが必要になってきていると思う。

武藤職務代 ケアハウスの存在により見えてきた部分がある (さまざまな要因も含めて)。今後、ケアハウスと町が連携し、町として子どもの相談体制を構築しても良いのではないかと。

及川員委員 母の立場として、お母さん方の情報交換の場であったり、子育てについての情報を発信する場であったりするような仕組み作りができないか。人と人とのつながり方を考えていかないといけない (基盤づくり)。また、性教育についても、「人を思いやる教育」としてやっていくことが大切なのではないかと。

教育長 これまで、ギガスクール構想やその他の施策等もあったが、県教委が主導するのではなく、各教育委員会に委ねられることが多い。それにより、

子どもたちに格差が生じている部分があり、県教委へもその旨を伝えて
いるが、改善はされていない。もっともっと県がイニシアチブをもって、
全県、どこでも同じ教育ができないといけない。

4. その他

5. 閉会あいさつ 鳥海教育長 (15:25)